

鶴見岳—九重連山—阿蘇山—祖母山

山行日：2014.10.26～30 参加者：TH、UY、NI、TM、SM 天候：晴れ

コース：26日 別府駅現地集合/11:55—鶴見岳—九重長者原/17:30 27日 5:30—登山口/5:45—坊がつる/8:20—北千里分岐/9:20—久住別れ/10:15—久住山/10:45—長者原/14:30—阿蘇かんぼの宿/16:00 28日 6:00—仙酔峡登山口/6:20—稜線/8:50—高岳/9:05—中岳/9:45—仙酔峡登山口/13:40—祖母山民宿/15:30 29日 6:00—尾平登山口/6:30—稜線/10:25—祖母山/12:25—尾平登山口/15:30—豊後竹田/16:40 30日 7:28—大分駅現地解散/9:04



新幹線と飛行機での移動、現地集合



鶴見岳へ登攀中は晴れていたのだが、山頂はガスで覆われ、由布岳も全く見えすぐに下山



九重に移動

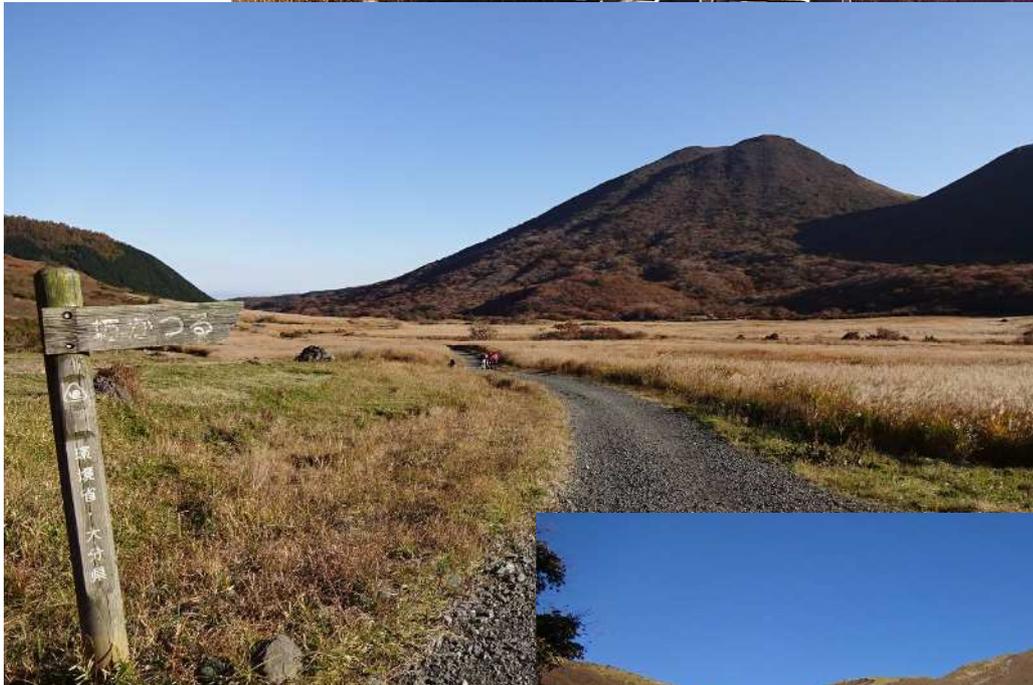
長者原高原、レストランホテルだけあって
潇洒な室内で創作フレンチ料理を堪能
お風呂も良かった





いよいよ本格的な登山が始まります
 レンタカーはホテルに置いてもらい
 ヘッドランプで登山口へ・・・

雨ヶ池越
 神秘的な
 ロケーションが
 はじまった



まさにここが
 坊がつるの草原

別天地のような
 風景が目の前に
 広がっていた

草原の先に法華院温泉
 ここから沢に沿って
 急登の開始





挿鉢状の坊がつるを蛇行して
鳴子川が流れているのが眼下に、
右に避難小屋とキャンプ場が
箱庭のように見えてきた

右の硫黄山から噴煙が湧き出ている
とても神秘的な風景だ



さらに高度を上げ
久住分かれからは
多くのハイカーが
山頂に向かって
いた





帰路は久住分かれー北千里まで
戻り、諏蛾守越經由で長者原へ



一路、阿蘇さんのふもと、かんぼの宿へ
雑誌サライ記事に、全国かんぼの宿
料理コンクールで準優勝となっただけあり



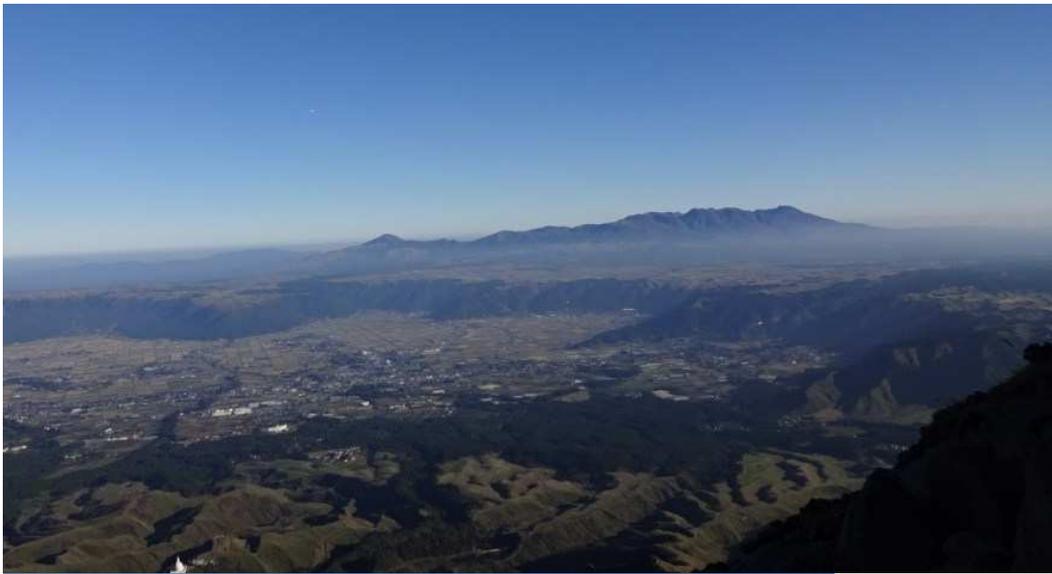
優雅なメニューであった



夜が明けると同時に仙酔峡登山口を出発する

溶岩帯の急登がつづき
稜線は2時間30分後に・・・





かんぼの宿は真下に
阿蘇のカルデラをいま
まさに実感できた

左奥は九重の山々



一般観光客は全く視界から
見られず
荒涼とした無人の世界

阿蘇山は噴火警報レベル2とのことで
噴火口近くまで行けるのか危惧していたが
最高峰の中岳までは行くことができたが
噴火口お釜めぐりは勿論
火口を見ることはできなかったが、噴火口からは
地響きのような不気味な音が鳴り響いていた

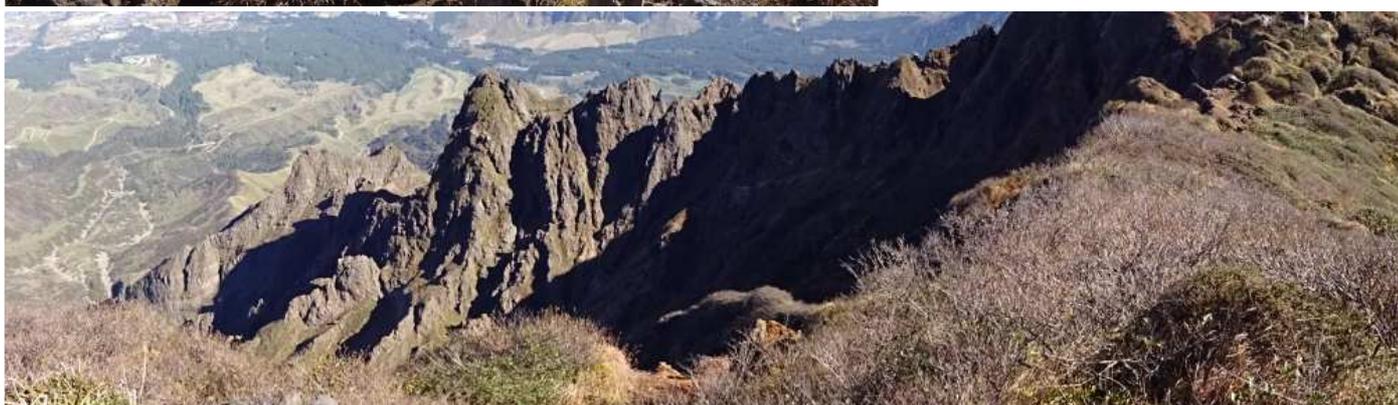




噴煙が立ち上っていた
ロープウェイは休止中

ハイカーが疎らにくるのみ
来た道を引き返す

南側のカルデラの向こうに
高千穂の峰々が見えていた



登山道の隣の岩尾根
虎ヶ峰—鷲ヶ峰の岩峰
多くのクライマーの命を奪っている北尾根
登山道入り口に数十名の慰霊碑が
立ち並んでいた

溶岩で岩石はセメントで固めたよう
になっていたので落石の心配はない

下山後は祖母山へ移動する





一般道からさらに奥深い林道を走ったところの狭い谷あいには古民家の一軒宿があった



林道終点、尾平鉾山跡に駐車し川上溪谷沿いに行く
朝日を浴びている稜線を目指す



厳しい
急登が
つづく
黒金山尾根
標高差
1100mを
一気に登るコース、4時間を要して稜線に出た



祖母山頂が目の前に現れた





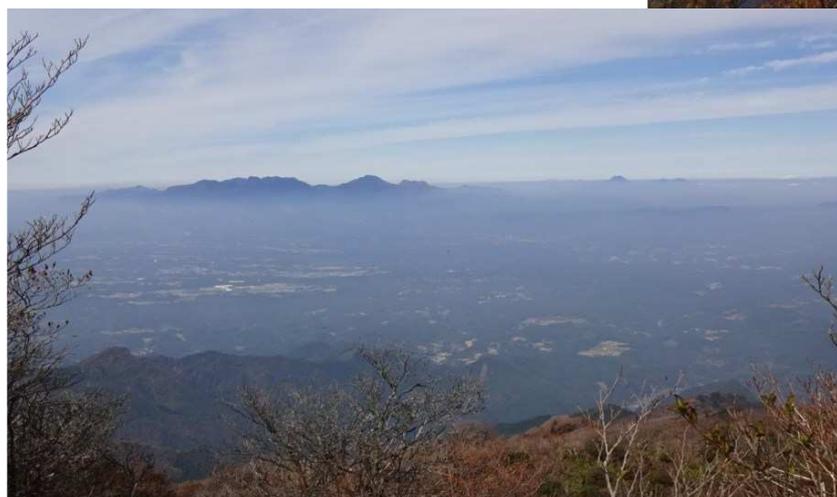
山頂へは
岩壁脇を直登した
コースであった
落石の危険、大



黒金山ルートは厳しいので
殆どのハイカーは安心安全近道の3ルートから
山頂に来ていた



川上溪谷中央の広場が鉱山跡
左尾根が下山路の障子岩尾根コース
最奥のピラミタルの頂が傾山、馬蹄形ルートで
縦走ができる
阿蘇山の噴煙が垂直に立ち上っている



九重連山と右奥は由布岳



九合目小屋
狭い林道を早く通過するため
尾平に向けて一目散に下山



吊橋を通過し登山は終了
豊後竹田駅近くの店に
五日間お世話になった
レンタカーを返す



ビジネスホテル前の
広瀬神社から市街地一望



大河ドラマ「坂の上の雲」壮絶な最後で散った
ロシア駐在武官だった広瀬大尉を祭った神社



神社下の
武家屋敷

豊後竹田から大分へ、新幹線組と飛行機組に分かれて現地解散・お疲れさま・・・

